横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　ここは　瀬小　瀬ヶ崎小学校
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

12月号
2018（平成30）年
11月 30日発行

人として大切な事

学校長　梅田　比奈子

偏見や差別は、病気に対する無知…つまり、病気に対しての正しい理解がなかったことから生まれた。人々は、ハンセン病はうつる病気だと信じ、患者だけではなく、その家族のことも差別をした。不幸にしてハンセン病にかかってしまった鉄平。鉄平だけではなく、その家族も差別を受けた。いつも気丈に家族を支えていた父にも、弟思いで頼りになる兄にも、優しく母親のような姉にも…。でも、家族はいつも鉄平の味方だった。鉄平のことを必死で守った。療養所に入ることを決断した鉄平。家族や故郷を捨てなければならなかった。でも、いつも鉄平は前向きだった。療養所で、一人で勉強に励み、字や言葉を覚えた。病気が治っても、療養所から出ることができず、療養所で一生を過ごすことの多かった中で、鉄平は社会に復帰する道を選んだ。手足に障害があるにもかかわらず、まわりの人たちに反対されたにもかかわらず、前向きな一歩をえらんだ。そして、こうして晴れて故郷に戻り、失われた少年時代を、再び取り戻すことができた。この物語は、けっして昔の話ではない。今でも、ハンセン病に対する差別は残っている。どうして、差別はなくならないのか。それは、差別する人がいるから…。ハンセン病のことを知ろうとせずに、差別をする人がいるから。無知が差別を生みだす。知らないことが罪なのではない。知ろうとしないことが罪なのである。

私たちは、この劇を通して、多くのことを学んだ。差別や偏見は、人の心を傷つけ、苦しめるということを。人は誰でも、差別する側の人間になってしまうかもしれないということを。どんな差別や偏見にも絶対に負けないという強い気持ちを。どんなにつらく厳しい時でも、希望を忘れてはいけないということを。そして、どんなときでも、自分を支えてくれる人が必ずいるということを。私には、一緒に手を取り合い、「差別はおかしい」と言える仲間がいる。この最高の仲間たちとともに、差別や偏見のない明るい未来を目指して…生きていきたい。

これは、瀬小の先輩が６年生のふれフェスの劇の最後の場面に語ったせりふです。当事、ハンセン病回復者の石山春平さんをお招きして、お話を伺った子どもたちは、その話をもとに石山さんを主人公とした劇をつくりました。そして、先日、石山さんの生きてきた歴史を書いた本が出版され、その本の最初に劇のこの部分が使われました。

石山さんのお話を伺うといつも私は元気がでます。それは、差別されてきた石山さんが、人々との出会いを大事にし、人とのつながりを大切にし、人を愛していることが伝わってくるからです。「一人ひとりは、かけがえのない存在」「自分と同じように周りの人も大事」「人は人とつながり、人と共に生きている」そんな言葉が、石山さんと話していると心に響いてきます。当事の瀬小の６年生も心で感じたことがたくさんあったことと思います。

１２月１日は、ふれあいフェスティバルです。子どもたちは、今まで学んできた事をもとに、工夫をこらして発表します。なかまとつくり、なかまと共に活動する中で、ぶつかり、考えながらつながりを深めてきました。そして、今年の６年生は、「いじめ」について取り上げ、劇を行ないます。子どもたちがどんな事を語るのかは、ご覧になって・・という事になりますが、そこに流れていることは、石山さんが私たちに伝えてきてくださったこととつながります。「一人ひとりが大事」「学校は、一人ひとりにとって、楽しい場所であり、安心して過ごせる場所でなければいけない」と。

１２月１０日は、世界人権宣言が採択された「世界人権デー」、そして、１２月４日から１２月１０日は「人権週間」です。